

現場レポート 「熊本地震語り部事業」

ASO 田園空間博物館は、一步步熊本地震の復旧・復興が進んでいく中、昨年7月から「語り部事業」をスタートさせました。これは、単に地震が起こって大変だったことを伝えるためにはじめた事業ではありません。当時の体験を伝えていくことで、いつどこで発生するか分からない災害に対し、「防災」「減災」という点で必ず役立つことがあると感じたからでした。



阿蘇西小学校付近の農道陥没箇所を訪れる参加者



阿蘇神社で被災体験を語る語り部

この事業は、まずASO田園空間博物館のサテライトの代表者や道の駅阿蘇に商品を出展される方に呼びかけ、語り部になっていただきました。その後、一般の方からも語り部になりたいという方が現れ、現在、14名が語り部として活躍しています。（現在も継続して募集中です。）

今回は、3名の語り部に、語り部として抱いている想いを伺いました。

現在、語り部事業は3パターンで展開しています。一つ目は、道の駅阿蘇の休憩室で来館者に向けておこなう「語り部発表」、二つ目は被災地を案内しながら体験談を伝える「語り部ガイドスタイル」。そして三つ目は、ホテルなどの会場で写真や映像を見ながら体験談を伝える「語り部講演スタイル」です。

いずれも、大きな反響をいただきました。全国から33団体、1484名の方に参加していただきました。（平成

※サテライトとは、地域が「地域の宝」として守り続けている自然、景観・風景、歴史・文化などであり、ASO 田園空間博物館では、これまで阿蘇谷を一望できる絶景スポットから、可憐な花々が咲きほこる小道、神話・歴史のロマンを伝える神社・仏閣等々をサテライトに登録し、地域住民(団体)のおこなうサテライト保全継承活動を支援しています。

29年4月末現在)この夏以降も多くの団体を受け入れる予定です。

今回の震災では辛い体験もありましたが、それは阿蘇の大切な歴史となり、「経験」という貴重な宝にもなったと思います。震災をともに乗り越えてきた地域住民の持つ強い繋がりが、絆は、今後の「防災」の大きな糧となります。日本中、いつどこで起こるか分からない自然災害だからこそ今後も語り部を通じて多くの方へ震災の経験を伝えていきたいと思えます。



永富 傳次さん
(狩尾1区)70歳

地震で自宅全体が陥没。現在は自宅を解体し、他地区のみなし仮設住宅に住んでいる。

これから一番怖いのは、熊本地震のことが急に忘れられてしまうこと。1年経ったというニュースが出たこれからが特にそうだと思う。ぜひ、阿蘇に関心を持って来てもらいたい。ありのままの阿蘇を見てもらいたい。そして、周りに話してもらいたい。私は、苦境を乗り越える人間のすごさ、人と人との支えあい、自然のやさしさを伝える、そんな語り部でありたいと思っています。

語り部の存在意義について強くやさしいまなざしで語る永富傳次さん。「常にありのままの自分であることで、自分が大切にしていることを伝えたい。」と語って頂きました。「阿蘇へたくさんの人に来てもらうことで阿蘇が元気になる。」いつも語り部活動の際、話される言葉です。

☎ 35・5077
だ物方
さい館は、語り
い。に、部
。おA、S
5問O、
0い田興
7合園味
7わ園空
　　間
　　ある
　　博



嶋村 征司さん
(北黒川区)75歳

地震で家屋などの被害は出なかったが、自らが会長を務める地域グループ「碧水ホテルの里」が管理するホテルの生息地及び養殖場に大きな被害が出た。

今回の震災は、地区の団結力を問われた災害だった。自分たちの地区は、なにより区長の手回しがよく安全確保と減災に努めてくれた。これは、他の地域の防災でも役立つことだと思う。「もう大丈夫」が一番怖い。これも今回の地震で学んだこと。2回目の地震で阿蘇は大きな被害が出た。「いつ何が起こるか分からない」と常に心の中に持っておかなくてはならない。このことを語り部として伝えたい。

自分の地区は住民が皆無事だった。今はホテルの被害が心配でならない。今年もホテルが出てくれるかどうか・・・

「語り部として防災を訴えていく必要がある。」そう強く語って頂いた嶋村征司さん。「ここで災害に負けてはいけない」と昨年、各地でイベントが見送られる中、ホテルを紹介するホテルツアーを無料で実施し、地元の方をはじめとする多くの方が参加されました。



永富 美津子さん
(狩尾1区)81歳

地震で自宅は無事だったが、家から約10分先の畑に大きな地割れができた。現在も地割れした畑を利用することができない。

語り部になった当初は、自分の体験したことをそのまま、とにかく話して人に伝えていた感じだった。だけど、だんだんと周辺の復旧は進んでいるし、やがて外輪山の崩れた山肌も自然の一部、当たり前前の光景になってゆくのかと思うと、やっぱり少しでも地震の記憶を残していかなければならないという気持ちが強くなった。これも大切な阿蘇の歴史だから。

震災後は気持ちが落ち込んで病気になった人や亡くなった人が急に増えた。「地震・雷・火事・オヤジ」というけれど、突然にやってくる災害に対して日頃から心がけていかななくてはならないと今回の震災で本当に学んだ。だから、語り部を通して、他の人も、いつ起こるか分からない災害に備える気持ちをもってもらえるならうれしい。

終始にこやかな表情で話してくださいました永富美津子さん。「少しでも皆さんのお役に立つことができれば。」と農作業で忙しい中、語り部として活躍されています。



入れたてのコーヒーを出す山本さん。お店を人が集まるコミュニティの場にしたいと語る。

Work **5**

山本 沙記

ELEPHANT COFFEE

Profile

1987年生まれ、29歳。芦北町出身、内牧在住。九州各地で製造業や接客業を経て、1年半前に両親が住んでいる阿蘇に移住。現在は宮地駅舎内にあるエレファントコーヒーの店長として働いている。



何事にもチャレンジしてほしい

—どんな仕事をしていますか—

以前は門前町商店街の古民家カフェで働いてました。熊本地震の影響で建物がダメになったので、今年の4月16日に宮地駅舎内に移転してきました。

コーヒーを入れる仕事メインですが、海外の人を含め観光客が多く降りてくるので、観光案内所みたいなになっていきます。おかげで阿蘇のことに詳しくなりそうです。

—阿蘇市の印象や仕事をやるうえで不安なこと—

阿蘇は水や空気がきれいで緑が多い印象です。また、地域の人たちも気軽に話しかけてくれます。

阿蘇市は人の繋がりが素敵なので全然不安はありません。縁があつてこの仕事に就くこともできましたし、多くの人たちに助けてもらってます。

—商工会青年部での役割は—

仕事を始めてすぐに青年部に加入したので、2年目になります。県

外の青年部の視察研修を受け入れる研修委員会で活動しています。青年部の全国大会に行くこともでき、県外に多くの知り合いをつくることができました。

—今後チャレンジしたいこと—

宮地駅にとどまらず、他の駅にもカフェを作りたいです。

また、宮地駅を地域の人が集まるたまり場のような場所にしたと考えています。

阿蘇中央高校はコーヒー豆を栽培していると聞いていたので、駅を利用して高校生にコーヒーを入れるバリスタ部を作ってもらい、ここで部活をして帰ってもらえるようなコミュニティの場になればと思います。

—これから阿蘇で働く人に向けて—

やりたいと思ったことは何事にもチャレンジして前に進んでほしい。ダメだったら新しいことをやればいいと思うので、若いうちにいろいろなことをやってほしいです。

器提供:滝室窯

旬の山菜おこわ

材料 (4人分)

- もち米：うるち米 (3:1) …2カップ
- タケノコ…1/3～1/2本 ●ワラビ…4～5本
- フキ…1～2本 ●ゴボウ…10～15cmくらい
- ニンジン…中1/3本 ●乾燥シイタケ…大1枚
- みりん…小さじ3 ●砂糖…小さじ1と1/2
- 酒…大さじ1と1/2 ●うす口しょうゆ…小さじ3
- かつおだし・乾燥シイタケの戻し汁…合わせて80～100cc
- アスパラガス…1本 ●すりごま…適量

作り方

【前日から準備するもの】

米は洗っておき、水に一晩つけておく。タケノコは米のぬかで茹でて、冷水で冷やしておく。ワラビは重曹をかけ、熱湯を入れ一晩おく。フキはゆがいて、水に一晩さらす。シイタケは水に戻しておく。

- ①ニンジン、ゴボウは洗ってささがきにし、ゴボウは薄めの酢水に10分程つけておく。
- ②前日にあく抜きしたものを切る。タケノコは2～3mm幅にし、ワラビは2～3cmにする。フキは小口切りにし、シイタケは薄く切り2～3等分にする。
- ③Aの材料を油で炒め、Bの調味料を入れて味が染み込むよう煮ておく。



- ④前日から水に漬けておいた米に少々塩を振ってから水を切る。蒸し器に入れ約30分蒸し、状態をみてよければ蒸し器から一度とり出し③の具と煮汁を入れたものを、再び蒸し器に戻し約20分蒸す。
- ⑤アスパラガスは塩水を入れた水に15分つける。沸騰した湯に塩を少々入れ1～2分ゆがいた後、水で冷やし小口切りにする。
- ⑥米が蒸しあがったら、アスパラガスを入れて混ぜ、すりごまをトッピングする。

岡一の宮保健センター ☎ 22-5088



たけうち みはる
竹内 美晴さん (22歳) 住所: 赤水
阿蘇広域行政事務組合消防本部 勤務

- 趣味 食べること 特技 泳ぐこと
- 好きな言葉 一生懸命
- 阿蘇の好きなところ 季節ごとに色々な表情をする阿蘇山がみられるところ
- 好きな異性のタイプ おもしろい人
- 仕事の内容 避難訓練、救急講習、火災・救急出動
- 仕事で日頃から心がけていること 常に笑顔でいること

一言コメント 地震から1年が過ぎましたが、まだ阿蘇は災害が発生しやすい状況にあります。職員一丸となって対応していきますので、よろしくお願いします。

フレッシュマン

阿蘇市で働く元気なフレッシュマンを募集しています！自薦他薦は問いません。

【対象】①阿蘇市民 ②阿蘇市内で働く人 ③仕事を始めて5年以内 ④おおむね30歳未満の男女
【問い合わせ】総務課秘書広報係 ☎ 22-3111 (メール) pr@city.aso.lg.jp